No. 30　スクールガードと連携した子どもの見守り活動の取組

■**管　　内**　宗谷管内
■**分　　類**　☑生活安全　☐交通安全　☐災害安全
■**教育課程**　☐教科（　　科）　☐道徳　☐総合的な学習の時間　☐特別活動　☑その他
■**校　　種**　☑小学校（低）☑小学校（中）☑小学校（高）☑中学校　☐高等学校
■**取組のポイント**

○　スクールガードによる子どもの安全を見守る活動の充実
○　安全・安心マップの地域への周知活動を通じた地域ぐるみの安全確保の推進

■**取組の実際**

ねらい

○　保護者や地域住民のボランティアによるスクールガードの取組や学校での安全・安心マップの作成等を通して、不審者から子どもを守る活動の充実を図る。

内　容

1　スクールガードによる見守り活動の実施

平成１８年度から市内７地区の「子育て連絡協議会」が教育委員会にスクールガードの登録を行い、町内会をはじめ、傘下の各種団体がボランティアとして、自主的に通学路等における子どもの見守り活動を行っている。

この活動に参加しているボランティアには、共通のベスト、ジャンパー（黄）、帽子、腕章を身に付けていただいている。また、学校においては、子どもに対して、ベスト等を着用している地域の方々がスクールガードとして見守ってくれていることを周知している。

通学路等での見守り活動

2　安全・安心マップの作成と地域への回覧、配布

学校では、子ども自らの手によって、校区内の「こども 110 番の家」や不審者が出没した場所、防犯上注意を要する危険箇所等を記した「安全・安心マップ」を作成した。

作成されたマップを校区の地域に回覧、配布するなどして周知することにより、子どもの目線に立った危険箇所の確認等がなされ、地域に根ざした見守り活動の有効な情報となっている。

学校では、「安全・安心マップ」の作成を通して、子どもの主体的な防犯意識を培うとともに、マップを活用した防犯に関する学習を行っている。

校区内の安全・安心マップ

成果と課題

○　子どもが主体となった安全マップの作成によって、自ら危険を予知したり、回避したりする力が育ってきた。
○　登下校時の見守り活動を通したスクールガードとの挨拶により、子どもと地域住民とのコミュニケーションが深まった。
●　地域住民や関係機関と連携した防犯教室、防犯訓練などを通じて、地域ぐるみで子どもを守り育てる体制づくりを充実させる必要がある。

No. 32　学校、家庭、地域、関係機関等が一体となった子どもの見守り活動の推進

■**管　　内**　オホーツク管内
■**分　　類**　☑生活安全　☐交通安全　☐災害安全
■**教育課程**　☐教科（　　科）　☐道徳　☐総合的な学習の時間　☐特別活動　☑その他
■**校　　種**　☑小学校（低）☑小学校（中）☑小学校（高）☑中学校　☐高等学校

■**取組のポイント**

○　中学校区の学校、地域住民、関係機関等で組織した「安心、安全サポーター」の設置
○　地域住民からの情報などを活用した「安全マップ」の作成
○　広報・啓発活動による地域への意識啓発

■**取組の実際**

ねらい

○　中学校区内の小・中学校と地域住民、関係機関等が連携し、不審者等から子どもを守る活動に取り組むなど、地域全体で子どもの安全・安心を確保する取組を推進する。

内　容

1　組織（「安心、安全サポーター」の構成）

「安心、安全な地域づくりの会」は、中学校区の小・中学校のほか、地域住民や関係機関等の代表者で「安心、安全サポーター」を構成し、登録数は84名となっている。

「安心、安全な地域づくりの会」組織
◇会　長（元中学校ＰＴＡ会長）
◇副会長（中学校長）
◇運営委員〔17名〕
　①地域選出委員
　②学校選出委員（各小学校長）
　③協力団体選出委員
　（警察、民生委員、市民活動課など）
◇安心、安全サポーター〔84名〕

2　活動内容

○ 安全パトロール

名札やベストを着用した「安心、安全サポーター」が、児童生徒の登下校時に、子どもの見守りや声掛けを行っている。安全パトロールを実施するに当たり、年に数回、警察署員等を講師とした、サポーター対象の講習会を開き、パトロールを行う際の注意事項等について確認している。

パトロール時に着用するベスト

○ 安全マップづくり

本会では、各学校のＰＴＡと連携しながら、地域住民から寄せられた情報などを基に、通学路の安全マップを作成した。校区の学校では、安全マップを基に、不審者が現れた地区を児童生徒と確認するなど、登下校等の安全指導に活用している。

○ 広報・啓発活動

地域の行事において、本会の活動内容を紹介するコーナーを設置し、広報・啓発活動を行っている。その際、地域の安全を守るために地域住民の方に取り組んでいただきたいことを呼び掛けるとともに、新たな「安心、安全サポーター」を募っている。

成果と課題

○　域内では、依然として不審者の情報が寄せられる中、当該地域では、地域全体で安全への意識が高まり、平成24年度に不審者の情報は寄せられていない。
●　設立５年目となる「安心、安全サポーター」の固定化が懸念されていることから、新たなサポーターを確保するなど、地域に根付いた活動となるよう工夫する必要がある。

No.36　地域と連携した防災訓練（避難所宿泊体験を含む）

■管　　内　空知管内
■分　　類　☐避難訓練　☐危険対応能力　☑防災訓練　☐その他（　　）
■教育課程　☐教科（　　科）　☐道徳　☐総合的な学習の時間　☑特別活動
■校　　種　☐小学校（低）☐小学校（中）☐小学校（高）☑中学校　☐高等学校

■取組のポイント

○　災害発生時における安全・迅速な行動や主体的な行動ができるなどの危機対応能力の育成
○　学校と地域が連携した避難所宿泊体験の実施

■取組の実際

ねらい

○　生徒が自らの安全を確保するために、安全かつ迅速及び主体的に行動することができる危機対応能力の育成を図る。
○　地域住民と連携した計画的な防災訓練や避難所宿泊体験を通して、生徒が災害時の自分の役割等について考えさせる機会とする。

内　容

1　危機対応能力を高める防災訓練の実施

巨大地震の発生を想定し、学校と地域が連携した防災訓練（１泊２日）を行った。

地域住民は、発生から２分後に地震が収まったと想定し、自宅から中学校へ避難した。

生徒は、本校の危機管理マニュアルに従って、各教室から体育館へ迅速に避難し、後から避難してくる地域住民の誘導補助を行ったり、支援が必要な地域住民に援助を行ったりした。

避難完了後に、防災についての意識を高めるため、大学教授による防災に関する講演会を実施し地域住民と生徒が共に学ぶ場を設定した。

【大学教授による防災に関する講演会】

2　防災意識を高める避難所宿泊体験の取組

講演会実施後、生徒と地域住民（希望する小学生を含む）が共に避難所で宿泊し、避難所生活を体験する機会を設定した。

参加した地域住民、教職員、生徒が「生活支援班」「炊き出し班」「訓練班」に分かれ、プライベートスペースの設置や夕食の炊き出し、衛生処理など、組織的に活動するとともに、市の職員による地域防災に関する講話やＡＥＤ講習会を実施した。

これらの取組を通して、生徒が地域住民との交流を深めたり、地域の防災や災害時のボランティア活動等の大切さについて理解を深めたりした。

【AED講習会】

成果と課題

○　避難所宿泊体験を通して、生徒の防災に対する意識を高めるとともに、生徒と地域住民との絆を深めることができた。
●　本取組の成果を広く周知するとともに、学校と地域が連携した安全教育の一層の充実を図る必要がある。

No.40 自動車学校と連携した交通安全教室による危険回避能力の育成

■管　　内　日高管内
■分　　類　☐通学路の点検　☑交通安全教室　☐安全教育　☐その他（　　）
■教育課程　☐教科（　　科）　☐道徳　☐総合的な学習の時間　☑特別活動
■校　　種　☐小学校（低）☐小学校（中）☐小学校（高）☑中学校　☐高等学校
■取組のポイント

○　自動車学校職員による自転車の安全な乗り方等の交通安全講話の実施
○　自動車教習コースにおける走行中の自動車の死角や自転車の安全運転等の実技講習の実施

■取組の実際

ねらい

○　実技講習を通して交通安全に対する知識と技能を身に付けるとともに、交通安全について日常の自らの行動等を振り返る機会を設定し、危険を予測したり、回避したりする能力の育成を図る。

内　容

自動車学校と連携した交通安全教室の実施

本校では、家庭、地域、関係機関・団体等と連携した安全教育の取組の一つとして、自動車学校を会場とした交通安全教室を実施している。

■交通安全講話

自動車学校職員から自転車での事故発生状況や事故を未然に防ぐための注意について講話を受けた。特に、自転車に乗る際には歩行者と接触し、けがをさせることのないよう、歩行者の安全に配慮して自転車に乗ることが大切であることに重点を置いた。

■危険を回避する能力を身に付けるための体験的な学習

自動車学校の教習コースにおいて、生徒が運転席に座り、対向右折車に対する死角や走行中の自動車から見える自転車の様子など、自動車の運転手の目線で確認させる。

また、生徒が自転車に乗って「駐車車両の側方通過」や「一時停止場所での完全停止と安全確認」などを体験することで自転車の安全運転の方法について学ぶことに重点を置いた。

【右折車に対する死角体験】

○　生徒の感想
・自転車に乗っている人が、場合によっては事故の加害者になってしまうことが分かった。歩行者に迷惑をかけないように自転車に乗ろうと思う。
・自動車を運転する人からは、自転車に乗る人が自動車の横から突然出てくるように見えたことが、とても危ないと思った。自転車は、自動車を運転する人から見えにくいということを意識して自転車に乗ろうと思う。

成果と課題

○　道路交通法について説明を受けたことにより、自転車に乗ることの責任を理解するとともに、自転車の乗車マナーの向上が図られた。
○　自動車の運転手の死角について自ら体験して確認したことにより、事故を未然に防ぐための危険を回避する能力を身に付けることができた。
●　家庭・地域・関係諸機関・団体と連携した安全教育の更なる充実を図るため交通安全教室の内容の見直しや改善について、継続的に取り組む必要がある。

No.53　関係機関と連携した自転車安全点検の実施、自転車乗車指導の充実

■管　　内　空知管内
■分　　類　☐通学路の点検　☑交通安全教室　☐安全教育　☐その他（　　）
■教育課程　☐教科（　　科）　☐道徳　☐総合的な学習の時間　☑特別活動
■校　　種　☐小学校（低）☐小学校（中）☐小学校（高）☑中学校　☐高等学校
■取組のポイント

○　関係機関との連携を図った自転車安全点検の実施
○　映像教材を用いた交通安全自転車講習会の実施

■取組の実際

ねらい

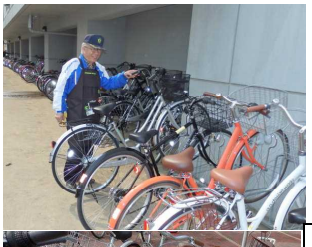
○　関係機関と連携した自転車安全点検を通して、自転車の点検・整備について理解を深め、自転車の管理・点検に対する意識の向上を図る。
○　交通安全自転車講習会を通して、自転車乗車時の危険と責任について理解を深め、交通安全に対する意識の向上を図る。

内　容

1　関係機関と連携した自転車安全点検

毎年春に、自転車通学者を対象に自転車協会の協力を得て自転車の安全点検を実施している。点検で不備があった自転車には、「自転車整備カード」を付け、自転車専門店で整備及び防犯登録を行うよう指導している。点検整備と防犯登録が確認された自転車には、学校で自転車通学許可ステッカーを交付している。

また、自転車通学者の保護者には、「自転車通学に関する確認事項」を配布し、自転車に関する交通ルールの徹底とともに、ＴＳマークの他、自転車事故に対する補償のための保険の加入を呼びかけている。



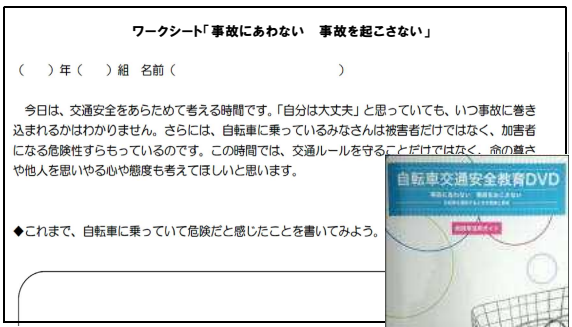
【自転車協会による自転車安全点検】

【「自転車整備カード」が付けられた自転車】

2　交通安全に対する意識を高める交通安全自転車講習会

春の自転車利用に際し、交通安全に関する映像教材の視聴と講話を通して、自転車乗車中の危険と責任について理解を促す、交通安全自転車講習会を実施している。

発生件数の多い自転車の自損・被害事故はもとより、自転車による加害事故の状況やその後の補償等の問題を学習することを通して、事故を起こしたときの責任について理解を促すとともに、日常の乗車の方法について見直す機会となっている。



【交通安全自転車講習会のワーシート】

【DVD】

成果と課題

○　関係機関と連携した自転車安全点検を毎年、継続して行うことにより、生徒に自転車の管理・点検の意識を促すことができている。
○　交通安全について、映像教材を用いて考えたことにより、自転車乗車時の危険や責任を自覚し、自転車運転時のマナーの向上につなげることができた。
●　交通安全教室などに保護者や地域住民の参加を呼びかけるなど、学校と家庭、地域が一体となった取組を進め、交通安全への意識の向上を図っていく必要がある。

No.55　交通安全教室の実施と「校区危険箇所マップ」の作成の取組

■管　　内　石狩管内
■分　　類　☑通学路の点検　☑交通安全教室　☐安全教育　☐その他（　　）
■教育課程　☐教科（　　科）　☐道徳　☐総合的な学習の時間　☑特別活動
■校　　種　☐小学校（低）☐小学校（中）☐小学校（高）☑中学校　☐高等学校
■取組のポイント

○　交通安全教室の実施
○　生徒会が中心となって作成した「交通安全宣言」の実施
○　ＰＴＡ、小学校と連携した「校区危険箇所マップ」の作成

■取組の実際

ねらい

○　身の回りに起こりうる交通事故や校区内の危険箇所を生徒自身に認識させることにより、交通安全意識の高揚を図る。

内　容

1　交通安全教室の実施と生徒会による「交通安全宣言」の作成

○　安全な自転車通学を考える交通安全教室の実施
・危険を予測する力を高めるため、夕暮れ時に、自動車の運転手から自転車がどのように見えるのかを映像で確認するとともに、映像を視聴しながら身の回りで起こりうる危険について発表し合った。
・道路交通法等について学び、自転車による事故においても賠償責任があることなどについて学習した。

○　生徒会による「交通安全宣言」の作成
・生徒会が中心となり、「交通安全宣言」を作成し、交通安全教室実施後に全校生徒に宣言して意識啓発を図った。

【生徒会長による
交通安全宣言】

【交通安全宣言】
私たち、○○中学校の生徒は、交通事故により多くの尊い命が失われている現状を正しく認識します。交通事故をなくすためには、一人一人が社会的責任を十分に自覚し、人命尊重の精神を重視して行動することが大切です。
私たちは、正しい交通ルールとマナーを守り、積極的に交通事故防止に貢献することをここに誓います。

2　保護者や小学校と連携した「校区危険箇所マップ」の作成

○　校区内の危険箇所の確認
・教員が保護者や小学校と連携して、通学路の再点検を行い、校区内の危険箇所について確認した。
・確認した危険箇所を踏まえて、「校区内危険箇所マップ」を作成した。

○　学級活動における通学時の注意事項の確認
・「校区危険箇所マップ」を活用し、校区の危険箇所の確認を行い、通学時に注意する点などについて話し合わせた。

○　家庭と連携した安全指導の周知徹底
・「校区危険箇所マップ」を保護者に配布し、家庭においても通学時の行動について確認するよう依頼した。

【校区危険箇所マップ】

成果と課題

○　生徒会が中心となり、「交通安全宣言」を作成し全校生徒に宣言したことにより、生徒一人一人の交通安全に対する意識が高まった。
○　ＰＴＡ、小学校の教員と連携して、きめ細かに危険箇所を確認して「校区危険箇所マップ」を作成したことにより、安全確保に関する詳細な情報を掲載することができた。
●　「校区危険箇所マップ」を学校のＷｅｂページに掲載し、広く周知するとともに、地域住民と連携した通学時の安全指導の取組を進める必要がある。

No.64　地域と連携し、生徒が主体的に考える交通安全教室の実施

■管　　内　宗谷管内
■分　　類　☑通学路の点検　☑交通安全教室　☐安全教育　☐その他（　　）
■教育課程　☐教科（　　科）　☐道徳　☐総合的な学習の時間　☑特別活動
■校　　種　☐小学校（低）☐小学校（中）☐小学校（高）☑中学校　☐高等学校
■取組のポイント

○　スクールガードを活用した生徒の安全を見守る活動の実施
○　教職員とスクールガードが連携した通学路の安全点検の実施
○　自転車の乗り方の改善策を生徒自らが考える取組の実施

■取組の実際

ねらい

○　スクールガードと連携した交通安全教室を実施して、自転車の安全な乗り方を学び、交通事故の原因と防止に関心をもち、交通安全に対する意識を高める。

内　容

1　スクールガードを活用した交通安全指導

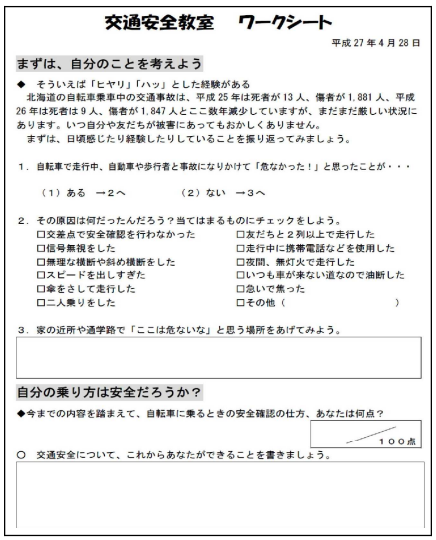
・教職員とスクールガードが連携し、通学路に立って交通安全指導を行っている。
・年12回ある土曜授業の実施日を含めて登下校時刻をスクールガードに伝え、生徒の交通事故防止に向けて見守り活動を行っている。
・教職員とスクールガードが連携して通学路の安全点検を行い、危険箇所等について情報を共有している。

＜生徒や保護者の声＞
【生徒】
「いつもスクールガードの方が声をかけてくれるので、すがすがしい気持ちになります。」
【保護者】
「先生方だけでなく、地域の方も見守ってくれるので安心して学校に通わせることができます。」

2　交通安全教室の実施

・スクールガードからの危険箇所等の情報や過去に地域で起きた交通事故の事例を基に、生徒が危険箇所を記入した地図を作成し、全員で交流した。
・自転車の乗り方に係るチェックリストを活用して自己評価を行い、改善する手立てをワークシートに記入した。
・「一時停止の標識のない道路から広い道路に出る際の自転車の安全な乗り方」など、具体的な場面を想定してグループで話合いを行い、生徒が主体的に交通安全について考える機会を設定した。

【通学路の危険箇所を発表する様子】



交通安全教室　ワークシート

平成 27 年 4 月 28 日

まずは、自分のことを考えよう

◆　そういえば「ヒヤリ」「ハッ」とした経験がある
北海道の自転車乗車中の交通事故は、平成 25 年は死者が 13 人、傷者が 1,881 人、平成 26 年は死者は 9 人、傷者が 1,847 人とここ数年減少していますが、まだまだ厳しい状況にあります。いつ自分や友だちが被害にあってもおかしくありません。
まずは、日頃感じたり経験したりしていることを振り返ってみましょう。

1．自転車で走行中、自動車や歩行者と事故になりかけて「危なかった！」と思ったことが・・・

（1）ある　→2へ　　（2）ない　→3へ

2．その原因は何だったんだろう？当てはまるものにチェックをしよう。
□交差点で安全確認を行わなかった　□友だちと 2 列以上で走行した
□信号無視をした　□走行中に携帯電話などを使用した
□無理な横断や斜め横断をした　□夜間、無灯火で走行した
□スピードを出しすぎた　□いつも車が来ない道なので油断した
□傘をさして走行した　□急いで焦った
□二人乗りをした　□その他（　　）

3．家の近所や通学路で「ここは危ないな」と思う場所をあげてみよう。

自分の乗り方は安全だろうか？

◆今までの内容を踏まえて、自転車に乗るときの安全確認の仕方、あなたは何点？

１００点

○　交通安全について、これからあなたができることを書きましょう。

【使用したワークシート】

成果と課題

○　スクールガードと連携し、生徒自らが危険箇所を記入した地図を作成するなど、生徒の主体的な活動を生かした交通安全教室を実施したことにより、一人一人の交通安全に対する意識を高めることができた。
●　生徒自身が自らの命を守ることはもとより、地域ぐるみで中学生を交通事故から守るという機運を高めることができるよう、地域住民も参加する交通安全教室を開催する必要がある。

No.67 児童生徒に「自助・共助」の力を育成する防災・減災教育の推進

■管　　内　十勝管内
■分　　類　☐避難訓練　☑危険対応能力　☑防災訓練　☐その他（　　）
■教育課程　☐教科（　　科）　☐道徳　☑総合的な学習の時間　☑特別活動
■校　　種　☑小学校（低）☑小学校（中）☑小学校（高）☑中学校　☐高等学校
■取組のポイント

○　専門的な知識等を有する外部講師等を活用した防災・減災教育の実施
○　児童生徒の発達の段階に応じた系統的・体系的な防災・減災教育の推進

■取組の実際

ねらい

○　自然災害時に伴う危険等についての理解を深める。
○　災害発生時に自らの命を守るために児童生徒が主体的に行動する態度を育む。

内　容

1　地震・大津波避難訓練の実施

地震や大津波からの身の守り方、避難の仕方を身に付けるために、約700m離れた高台まで避難する訓練を実施している。訓練では、災害が発生した際の児童生徒の居場所に応じた身の守り方や適切な避難の方法について評価し、防災・減災学習の改善・充実に役立てている。

【地震・大津波避難訓練】

2　地震・津波の防災・減災学習の実施

気象台職員を外部講師として招聘し、管内での過去に起きた災害に関する講話の実施、竜巻発生装置等を活用した説明を受けた。また、自然災害に応じた身の守り方や避難の仕方についての説明を通して、防災及び減災の知識を身に付けることができた。

【外部講師による防災学習】

3　「災害図上訓練（ＤＩＧ）」の実施

災害が発生した際、いつでも自分の身の守ることができるよう、「災害図上訓練（ＤＩＧ）」を実施している。児童生徒は校区の津波や風水害への強さ・弱さ等について話し合いながら防災地図を作成したり、簡易ベッドをつくったりすることを通して災害発生時の対応方法について考えることができた。

【災害図上訓練】

【簡易ベッドづくり】

4　災害ボランティア活動の推進

地域で開催する防災訓練に域内の幼稚園、中学校とともに参加して防災に係るボランティア活動を行い、緊急時における地域での共助や公助について理解を深め、地域の一員として参画する意識を高めることができた。

成果と課題

○　系統的・体系的な防災・減災学習を通して、児童生徒に「自分の命は自分で守る」という意識を身に付けさせることができた。
●　「公助」の観点から、家庭や地域、関係機関と連携を図った包括的な防災・減災教育を一層推進する必要がある。